

Flexcharge NC25a の蓄電池電圧検知方法

蓄電池充電制御器 NC25a には、蓄電池電圧検知専用端子が右側に設けられています。一方左方向には蓄電池充電用端子が見えます(右写真)。多くのユーザーは、蓄電池充電用端子と、電圧検知用端子にジャンパーを入れ、これで良いのだと思われませんが、メーカーの設計構想とは相いられない方法ですので、必ずメーカーの指示通りの別配線が必要です。



何故、別個に配線しなければならないのか？

ジャンパーで蓄電池電圧検知は、なるほど可能です。しかし、もし、水力発電等、発電入力が続されている時に、もし蓄電池充電線が取り外された場合(例えば蓄電池電線が腐食で断線したり、古い蓄電池を新しい物に交換する為、一時的に蓄電池を外したり);この状況下では、蓄電池検知電圧は異常な状態になり、正規の蓄電池充電用電圧は異常な高電圧に変化する場合があります。又制御器の破損の原因にもなります。(発電機の種類にもよりますが)他の問題として、例えば蓄電池充電回路にアンペアメーターを入れた場合、ジャンパー経由の検知電圧では、本当の蓄電池電圧とは異なった電圧を認識する場合があります。メーカーの設計思想は、ユーザーの使用方法は千差万別だが、常に蓄電池の本当の電圧を知るには、この検知用専用電線で検知し、その正確な状態を知ることのみ、正しい充電制御が可能になり全回路が安定します。

もしどうしても、別配線が嫌だとおっしゃる場合、事故などは想定外としても、充電用電線を相当太めにし、充電距離による電圧降下が絶対に起こらない配線をしなければならないのです。しかしメーカーの保証範囲外と理解ください。

又マニュアルでは、蓄電池電圧検知無しで、充電開始すると、本器は直ちに故障するとも書かれています。実際使用者側の使用方法は千差万別であり、本器の故障かユーザーの使用方法による問題発生かを見極める方法は、唯一、充電回路と、検知回路の電線を個別にする事で、明確な判断が可能であり、それは反対にユーザーにもメリットのある事なのです。

確かに非常に小規模の場合、ジャンパーでも問題ないのですが、弊社にとって千差万別のユーザーに対する的確なアドバイスの為には、この基本があってこそ、皆様には、ご安心して、ご利用願える事をご理解ください。

- ①充電開始前に、電圧検知電線は先に、蓄電池に繋いでおくこと(使用説明書 4 頁参照)
- ②充電端子と電圧検知端子にジャンパーは出来ないとご理解ください